必ず起きる地震と災害に備えて

東日本大震災が発生して地震と共に津波が襲い、未曾有の大災害が起きました。
２万人以上の死者行方不明者が出て、倒壊流失家屋は6県で１２万戸という膨大な数です。明治元年(1868)から平成23年(2011)までの死者行方不明者の多い地震と災害を表にしました。多くの人命を亡くした地震が繰り返し起きているのが分かります。　(表－１)

太平洋プレートが北米プレートに潜り込みと反動の地震は津波を伴い、②明治三陸地震、⑦昭和三陸地震、今回の、③平成23年3月11日の東日本大震災の地震と津波が、繰り返し起きているのが分かります。「命てんでんこ」とか「津波てんでんこ」と言い伝えられ、地震が起きたら、てんでばらばらでいいから誰にもかまわず、まず逃げろ！、と教わったと言う。そして助かった人も多くいたと聞きます。
私たちの住む東海地方でも、繰り返し起きているのが、東海、東南海、南海地震で津波を伴い多くの犠牲者が出ています。フィリピン海プレートがユーラシアプレートに潜り込みと反動の地震は津波を伴い、多くの犠牲者が出ています。東日本大震災と同じように東海地方のプレート型地震は150年から90～100年で繰り返し起きているのが分かります。　(表－２)

昭和19年12月7日に起きた、津波を伴うプレート型の東南海地震とその1ヶ月後の昭和20年1月13日に起きた直下型地震の三河地震は戦時中のため、軍による報道管制がされていて、写真や資料がほとんど無く、幻の地震といわれています。(写真－１)　三河地震の深溝(ふこうず)断層。

昭和20年8月15日が終戦です。東南海地震から2年後の昭和21年12月21日に南海地震が起きて、東海地震は起きなかったと言われていますが、よく分からないのが実情です。三河地震でさえ800回の余震があったといわれます。誰も助けてくれなかった。自分で何とかするしか無かった。多くのお年寄りがそう言われた言葉に心が痛みました。
今後30年に発生する確率が87%と言われています。今、起きても、不思議ではない。ということです。東海、東南海、南海地震が３連動で起きる可能性が高くなった。とも言われています。
明治24年10月28日に発生した、根尾谷断層が６ｍ隆起した直下型地震の、④濃尾地震　(写真－２)　は震度７の範囲が広く倒壊戸数が多く犠牲者も多くあったが、軍隊がライフラインの復旧を行った。住民は堤防の整備に尽力して、水害に備え復興した。(図－２)

軍部が惨状を救った濃尾地震、軍部が惨状をひた隠しにした東南海、三河地震。当時軍事産業への影響は「回復不可能の程度に破壊」され敗戦を印象づけるほど大きかった。
大地震の後には必ず津波が来る。熊野灘沿岸に伝わる言い伝えを古老たちはよく知っていた。父、母、兄弟までも奪った津波。瓦礫だけが残った。まるで東日本大震災と同じ光景だった。三重県度会郡大紀町錦は壊滅された町に、また多くの人々が住んでいます。住民の避難時間短縮のため、錦タワーを建て避難、防災施設にしている。
濃尾地震、東南海地震、三河地震も液状化が起きていることがわかっている。名古屋は東海道、桑名から宮まで７里の渡しで海道でした。熱田港から名古屋港には浚渫して深くした。その浚渫どろで埋め立て地を造成してきたので液状化は避けられない。良港であったのが武豊港で、鉄道、武豊線が明治19年開通、東海道線が明治22年開通、資材を武豊線で運んだのです。そして、東海道線がリスクを避けるために岐阜から関が原を通っている。尾張名古屋は低地で多くの人々が暮らしています。(図－１)
伊勢湾台風によりこの低地で暮らす住民が犠牲になっていることも忘れてはならない。
地球物理学者、寺田寅彦は、人が忘れたころに大地震が来てまた同じような事を繰り返すに違いない。東日本大震災、東南海地震、三河地震は我我にいくつかの教訓を残してくれた。それを忘れれば、再び同じ悲劇が繰り返される。
寺田寅彦の警告、今こそ耳を傾けなければならない。

【死者・不明の多い地震と災害】〔明治元年(1868)から平成23年(2011)　表-1

地震の名称等	規模	発生年月日	死者行方不明	倒壊戸数 (流失、焼失含む)
①関東大震災	M7.9	1923.9.1 (大正12年)	142,807 人	575,394 戸
②明治三陸地震・津波	M8.5	1896.6.15 (明治 29 年)	26,360 人	11,722 戸
③東日本大震災・津波 (東北地方太平洋沖地震)	M9.0	2011.3.11 (平成23年)	20,208 人	120,000 戸
④濃尾地震	M8.0	1891.10.28 (明治24年)	7,273 人	142,177 戸
⑤兵庫県南部地震 (阪神淡路大震災)	M7.3	1995.1.17 (平成 7 年)	6,437 人	111,942 戸
伊勢湾台風 (台風 15 号) (国際名　Vera ベラ)	最大風速 75m/s	1959.9.26 (昭和34年)	5,098 人	40,838 戸
⑥福井地震	M7.1	1948.6.28 (昭和23年)	3,769 人	40,035 戸
⑦昭和三陸地震・津波	M8.1	1933.3.3 (昭和 8 年)	3,064 人	11,894 戸
⑧三河地震	M6.8	1945.1.13 (昭和20年)	2,306 人	16,408 戸
⑨南海地震・津波	M8.0	1946.12.21 (昭和21年)	1,330 人	15,640 戸
⑩東南海地震・津波	M7.9	1944.12.7 (昭和19年)	1,251 人	20,728 戸
⑪北海道南西沖地震・津波	M7.8	1993.7.12 (平成 5 年)	230 人	601 戸
⑫日本海中部地震・津波	M7.7	1983.5.26 (昭和58年)	104 人	986 戸

写真-1

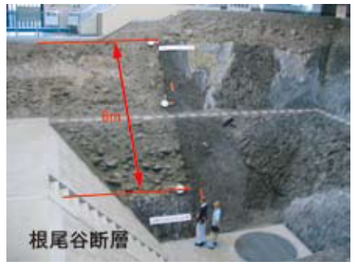


写真-2

「1:25,000デジタル標高地形図」(名古屋及び濃尾平野西部をつなぎ合わせたもの)

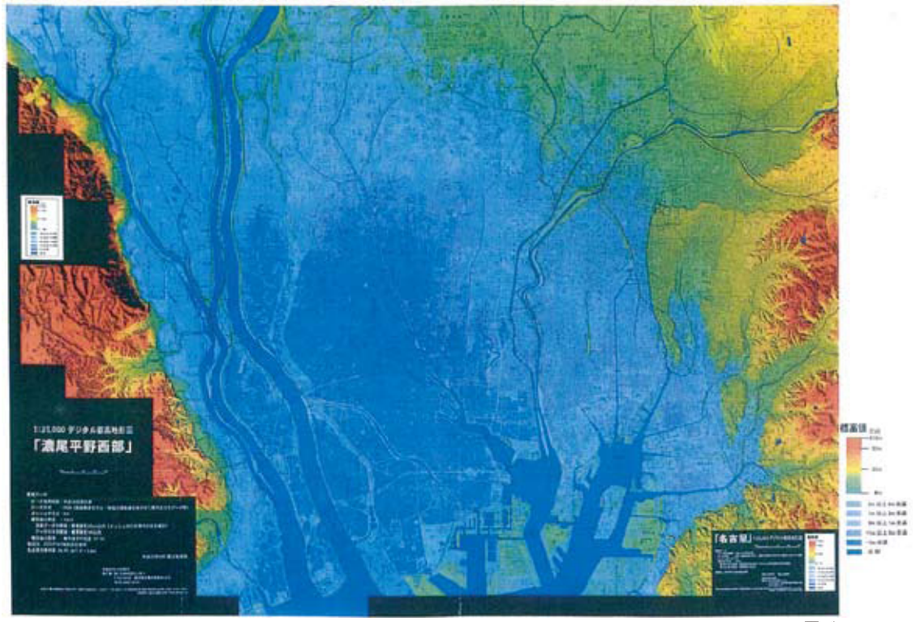
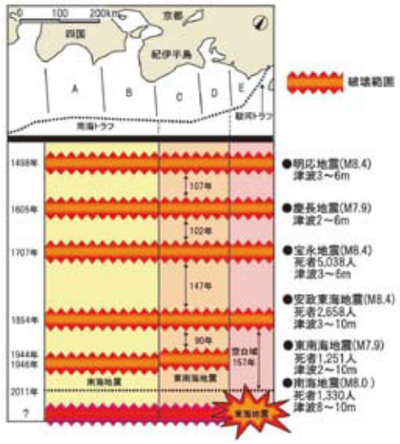


図-1

【地震の発生記録と東海地震の発生予測】　表-2



濃尾地震の震度分布　図-2